桑名聖天火渡りまつり

柴灯大護摩火渡りの厳修と伊勢大神楽の奉納

聖徳太子の創建と伝わる大福田寺。本尊の阿弥陀如来のほかに、桑名藩主松平定重の念持仏、聖天を祀っており、「桑名の聖天さん」とも呼ばれる。毎年4月1日・2日には「桑名聖天火渡りまつり」が行われ、両日とも多くの参詣者で賑わう。

三面大黒天は、七福神の大黒天と毘沙門天、弁財天を三福合体の仏様。願いを書いて大黒天の袋に入れて祈ると、成就するといわれている。但し、宇賀副住職によれば、ひとに見られないように入れないといけないそうだ

菊の紋章使用を許された高野山真言宗の仏教寺院

寺伝によれば、伊勢山田の地に聖徳太子が開いたという。伊勢神宮の別当寺として、大神宮寺と称されていた。天長年間（824～834）、弘法大師が三密の法を修したことから、真言道場になったと伝わる。

歴代の天皇の信仰も厚く、淳和天皇の時、勅願寺に指定され、延喜年間（901～923）に寛平法皇（宇多天皇）が閑居されてからは御室御所と呼ばれ、菊花の紋章の使用が許された。

弘安年中（1278～1288）、火災に見舞われて荒廃したが、後宇多天皇の勅命によって、神宮詞人大和守額田部実澄が忍性上人と協力し、桑名郡神戸郷（現在の桑名市大福地内）に再興した。この時、寺号を福田寺と改め、のちに足利尊氏の崇敬を受け、大の字を加えて大福田寺と改号した。

その後、幾度となく天災や兵火に遭い、寺運は衰えていく。寛文2（1662）年、桑名藩主松平定重の援助を受けて、現在地に再興された。

副住職
宇賀淳孝さん

国指定の重要文化財など伝来の寺宝を多く有する

江戸時代の建立といわれる山門をくぐると、右手に鐘楼、正面に本堂がある。本尊の木造阿弥陀如来立像は三重県指定有形文化財で、通称「引阿弥陀如来」と呼ばれる。

「赤須賀の浜で漁師が曳く網にかかった香木で刻まれたからとも、後宇多天皇寄進の際に京都より引き参らせたからとも、いわれています」と副住職の宇賀淳孝さん。毎年8月20日には「引阿弥陀会式」が行われ、本尊が開帳される。

本堂横に建つのが聖天堂で、定重が寄進した秘仏の聖天（大聖歓喜自在天）を祀る。聖天とは頭が象、身体が人間の姿をした仏教の守護神であり、財運や福運などをもたらす神として広く信仰されてきた。桑名聖天は生駒聖天、待乳山聖天と並び、日本三大聖天の一つに数えられている。

大福田寺では「阿弥陀三尊毛曼荼羅」「十六善神画像」など数多くの寺宝を蔵しているが、中でも釈迦の生涯における8つの重要事蹟を描いた「絹本著色釈迦八相成道図」や、大福田寺の由来などが記された「紙本墨書勧進状（附：絹本著色忍性上人像・絹本著色額田部実澄像）」は、国の重要文化財に指定されており、現在はいずれも奈良国立博物館に寄託されている。

上）鐘楼前の松は有名な高野山の「三鈷の松」と同じく、葉が三葉ある。落葉した三葉の松を財布に入れておくと、お金が貯まるといわれている　下）庫裡の玄関の唐破風には菊花御紋章が見える

右）四方と天地中央に矢を射り、魔を払う法弓作法　左）伊勢大神楽「魁曲」の一場面。振袖姿の花魁に扮した獅子が、伊勢音頭に合わせて花魁道中を行い、最後に獅子が舞台に隠れた途端、オカメに早変わりする

聖天堂。太平洋戦争中、焼夷弾が聖天堂に落下したが、聖天尊の厨子の宝珠が発火栓を塞ぎ、焼失を免れたという話が残る

護摩木の灰の上を渡り無病息災の幸せをいただく

毎年4月1日・2日に開かれる桑名聖天の祭礼「桑名聖天火渡りまつり」。その最大催事が「柴灯大護摩火渡り」である。柴灯大護摩は真言密教の奥義で、野外で行う大規模な護摩祈祷を指す。火渡りはその護摩の熾火（おきび）（炭火）をならした上を裸足で歩いて渡り、穢れや煩悩を焼き清め、加護をいただく修行だ。

大福田寺の柴灯大護摩では、真言密教独特の修法が見られる。住職をはじめ三重修験道の行者によって、法斧、法弓、法剣などを用いて魔を祓う一連の結界作法が粛々と執り行われる。願文奏上の後、点火されると、瞬く間に護摩壇を覆っていた杉の葉がくすぶり出す。白煙があたりを包み、やがて赤々と厄難を焼き尽くす炎が立ち上る。

火の勢いが衰え、熾火を整えれば、いよいよ火渡りが始まる。まず行者らが先達となって渡り、来賓や奉賛会、檀家衆が続くが、その中に山伏（男児）や神子（女児）の衣装を身につけた子どもたちの姿がある。祭礼行事の一つ「山伏神子稚児行列」に参加した、今春に小学校へ入学する児童たちで、御幣を手に渡っていく。火渡りは1日・2日の両日行われ、例年、約千人が渡るという。

祭礼2日目には、国指定重要無形民俗文化財「伊勢大神楽」が奉納される。450年以上の歴史を持ち、古くは「伊勢代神楽」と表記され、伊勢神宮に参拝できない人の代わりに神楽を奉納する神事である。曲芸や獅子舞などが演じられ、大勢の参詣者を魅了する。

「火渡りはどなたでも参加できますので、ぜひこの1年の無病息災、開運福徳の幸せをいただいてください」と宇賀副住職は呼びかける。

上）行者が読経を唱える中、願い事を書いた護摩木が燃やされる。火が落ち着いたところで、炭火をならし、火渡り場が設けられる　下）長さ3メートルほどの火渡り場を導師（僧侶）に続き、行者、来賓が素足で渡っていく

稚児（新入学児童）が火渡りする様子。子どもたちは裸足で渡るのではなく、置かれた梯子の上を進む。「かつては稚児の募集をかけると、男女各100人が1週間ほどで埋まりました。少子化の影響もあって、現在は70人ずつを募るのですが、定員に達しない年もあります」と宇賀副住職

information

神宝山法皇院大福田寺

［住所］桑名市東方1426
［電話］0594-22-0199

桑名聖天火渡りまつり

4月1日（月）
山伏神子稚児行列　13:00
柴灯大護摩火渡り神事　15:00

4月2日（火）
伊勢大神楽　10:00・13:00
納め護摩火渡り神事　14:30
※両日とも祭礼行事の最後に「福もち投げ」を実施

大福田寺で授与される御朱印

毎月1日・16日の桑名聖天月例祭や、28日の厄除不動尊縁日のほか、三重四国八十八カ所第1番札所、伊勢七福神霊場「大黒天」として、参拝者が絶えない

※2020年度の稚児募集は4月10日から受付

文／長屋整徳　写真／大福田寺提供、編集室　デザイン／chica